

した。炭素はサセプターとなる黒鉛の生産からコーティング費して手掛け、同で世界市場で4シエアがある。香の2拠点で生産り、今回の設備増め、生産量を早急上げる方針だ。の11年5月期の連は売上高が前期比の350億円、純2・3倍の33億円

調。個別製品の生産量は開示していないが、新興国向けを中心とするLED関連需要の高まりで、製造工程で使う黒鉛製品が伸びているもようだ。国内でも節電対策などでLED照明の需要が伸びそで、市況を見ながら設備増強を検討する。香川県内には萩原工場(観音寺市)、詫間事業所(香川県三豊市)などの拠点もあり、東洋炭素の主要な製造拠点の1つとなっている。

## トマトジュース 血圧降下作用を確認

高知県立大など産学官

の産学官の共同研究で分かった。血圧が高めの中、高年者が継続的に飲んだところ、約6割の人で血圧の低下を確認した。高知県立大とフルーツトマトジュースを製造・販売する池一菜果園(高知県土佐市、池洋一社長)、土佐市の3者が2009年に締結した産学官連携協定に基づいて研究した。

(150ミリ)を1日おきに飲んでもらい、朝食前に血圧を測定した。24週間の調査期間のうち、9週間続けて摂取後、3週間の間隔を空け、再び8週間、摂取を続けた。その結果、血圧の高めの11人のうち7人に血圧の低下効果が認められた。調査開始時に154だった上の血圧の平均値が実験終了時には144まで下がったという。フルーツトマトには、代表的な桃太郎トマトよりも約1・8倍の抗酸化力があり、血圧降下作用のあるルチンやカリウムを豊富に含む。高知県立大の佐藤厚教授は「トマトを丸ごと食べても効果があるが、定期的にトマトジュースを飲むことで高血圧になることをかなりの確率で防ぐことができるのではないかと話している。」

新聞社2011 (日刊)

# 日本経済新聞

5月12日 木曜日

## 太陽光で発電、情報提供も

報を表示し、災害時は無線LAN(構内情報通信網)の操作で各種災害情報に切り替わる。三洋電機がリチウムイオン蓄電システムを提供。住民避難の拠点になる南部防災館(海陽町)と、工業技術センター(徳島市)にも設置した。産学の「次世代エネルギー活用促進研究会」の会員企業が技術提供し、徳島大学を拠点に開発を進めた。

県内に事業所をた。1129社を対不足した具体的品目は食品メーカーからは食品包材、建設会社で電線や鋼材、病院で一部薬品など。東北地方の生産拠点が減産を余儀なくされて

っていると思われる。

## 冷感生地使った 羽毛掛け布団

高橋ふとん店(徳島市、高橋武良社長)は西川産業(東京・中央)と共同で冷感生地を使った羽毛の掛け布団を開発し、販売を始めた。東洋紡の冷感生地「タイニーマ」とメッシュ生地を使い、布団の中にこもる熱気や湿気を外に放出しやすくした。羽毛はハンガリー産のホワイトグースダウンを使用。同じ羽毛を使った別の合い掛け布団と2枚1組で販売する。

ルが18万9千円(同)。

## 建材販売伸び 最終黒字2億円

南海プライウッド前期南海プライウッドが11日発表した2011年3月期連結決算は最終損益が2億3000万円の黒字(前の期は2億2100万円の赤字)だった。黒字化は4期ぶり。戸建てを中心に住宅着工が増え、建材販売が伸びた。売上高は6%増の115億円。為替関連の損失が一巡し、12年3月期の純利益は前期比約2・2倍の5億円の見通しだ。クリエアナブキ

事業は厳しい状態が続く見通しだが、医療関連の人材サービスや人材紹介といった事業を伸ばして増収を目指す。純利益は税負担の増加で15%減の6400万円の見通し。

議長に自民・寺井氏  
愛媛県議会 11日、議長に最大会派である自民党の寺井修氏(59、松山市・上浮穴郡区)、副議長に自民党の竹田祥一氏(76、同)を選出した。

ATMの待機電力削減  
阿波銀行 11日、ATM298台を待機時の電力供給を削減する省電力モ

連携ファンド

Bloomberg